

- 対馬地域のアスパラガス栽培においては、収量が減少傾向にあり県の平均単収を大きく下回っていた。その要因は基本的な栽培管理の不足であり、農家の長年の作業の慣れから来る認識の甘さによるものと考えられた。
- このため対馬振興局では、JAや市と連携し、基本栽培管理の徹底や意識改革を図ることで増収に繋がる取り組みを支援。
- その結果、重点指導モデル農家全体では、3カ年で、単収が1866kgとなり県平均単収を突破した。また、部会全体で農家の意識の変化が見られ、基本栽培管理に取り組む農家が増加した。

具体的な成果

1 単収の向上

- 水管理を指導した農家A氏では1100kg(196%)増加し2316kgに向上。適期防除を指導した農家B氏では単収が604kg(151%)増加し1782kgに向上。

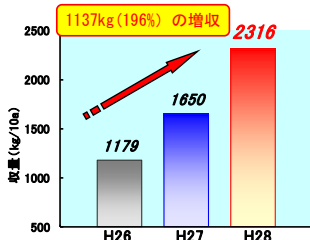


図1 水管理の徹底による単収向上

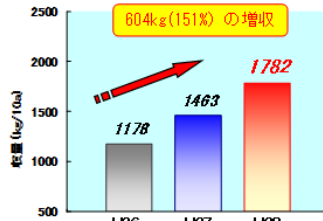


図2 適期防除の徹底による単収向上

- 重点指導モデル農家全体では、単収が1866kgとなり県平均単収を突破。

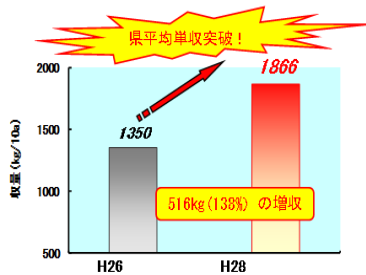


図3 重点モデル農家の平均単収向上

2 早期保温による単収の向上と出荷体制の整備

- 展示圃での春芽の収穫開始は5日間早まり、単収は282kg、所得は約12万円増加。導入農家が7→12戸に増加。
- 選果場の稼働開始は3月中旬から2月上旬に早まり、早期出荷体制が整備。

3 農家の意識改革と基本管理の実践

- 部会全体で基本栽培管理の再認識、取組が見られるようになった。

普及指導員の活動

平成26年～

- 対馬振興局、JAおよび市と連携し増収に向けた支援を開始。
- モデル農家に対し栽培カルテ等を活用し改善点の見える化を行い、基本栽培管理(水・防除・温度管理)を徹底的に指導。
- トンネル被覆による早期保温における増収効果を実証、展示。また、JAと早期出荷体制について協議。

平成27年～

- モデル農家および早期保温の取組結果を部会の他生産者にも講習。
- 新規就農者を中心に、先進地視察研修を実施。
- 試験研究の研究成果等の講習会
県農技センターの研究員を講師とした試験・研究成果データに基づいた基本管理の必要・重要性について講習会を開催。

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門技術を持ち、試験場や他県の技術を知る普及指導員だからこそ、的確な管理技術や地域に適した栽培方法を提案し定着させることが可能。

- ・ 日頃から連携している他産地の先進農業者、JA、研究機関、市等の関係者を結びつけ、単収の向上に向けた取組を進めることができた。

産地の意識改革によるアスパラガス増収対策

活動期間：平成 26 年度～継続中

1. 取組の背景

近年、対馬地域のアスパラガス栽培においては、収量が減少傾向にあり県の平均単収を大きく下回っていた。農家への聞き取り調査等を行った結果、その要因は基本的な栽培管理の不足であり、これは農家の長年の作業の慣れから来る認識の甘さによるところが大きいと考えられた。そこで、JA対馬や対馬市と連携し、基本栽培管理の徹底や農家の意識改革を図ることで増収に繋がる取り組みを実施した。

2. 活動内容（詳細）

（1）モデル農家の重点指導

5戸のモデル農家を設定し、農家栽培カルテ等を活用しながら改善点の見える化を行い、基本栽培管理（水管理、適期防除、温度管理）について徹底的に指導した。

（2）早期保温対策の実施と出荷体制の整備

対馬地区は、県内で最北端に位置することもあり、保温開始時期が3月中旬、春芽収穫開始が3月下旬からと他産地に比べて遅く、その結果、春芽収穫期間が短く、春芽収量も低い。春芽収量の確保は、単収の増加と所得の確保につながることから、ミニハウスでのトンネル被覆による早期保温における増収効果を実証、展示し、農家の取り組みへの意識を高めた。また、JAと出荷体制について協議した。

（3）部会員への波及、先進地視察及び試験研究成果の紹介

①部会全体への波及

これまでのモデル農家および早期保温の取組の結果を他生産者にも提示し、意識改革、技術の波及を図った。

②島外視察研修（壱岐）

新規就農者を中心に、先進地視察研修を実施し、技術研修のほか、先進農家と活発な意見交換を行うことで栽培意欲の向上を図った。

③試験研究の研究成果等の講習会

県農技センターの研究員を講師とした講習会を開催し、試験・研究成果データに基づいた基本管理技術の必要・重要性を提示し、その再認識を図った。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）単収の向上

水管理について、その灌水量の不足について指導した農家A氏においては、3年間で単収が約1100kg、196%増加し、2316kgに達した（図1）。病害虫管理について、発生状況や防除暦に基づいた適期防除を指導した農家B氏においては、3年間で単収が約604kg、151%増加し、1782kgに達した。

重点指導モデル農家全体では、平成26年から3カ年で、単収が516kg増加し、1866kgとなり県平均単収を突破した（図3）。また、部会全体で単収が向上した農家は、12戸となった。

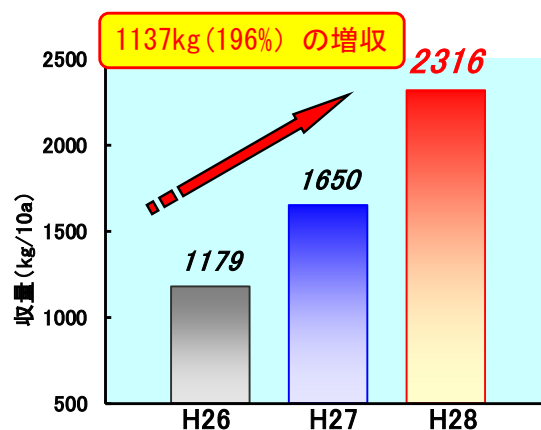


図1 水管理の徹底による単収向上

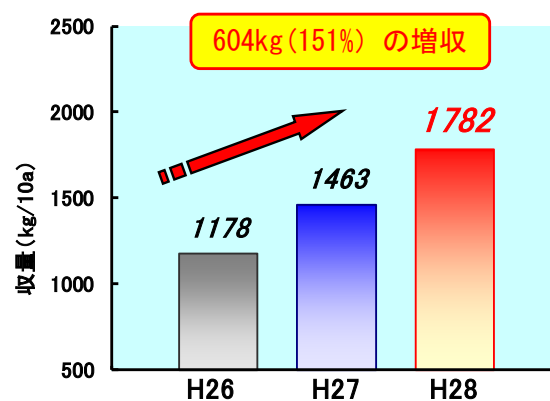


図2 適期防除の徹底による単収向上

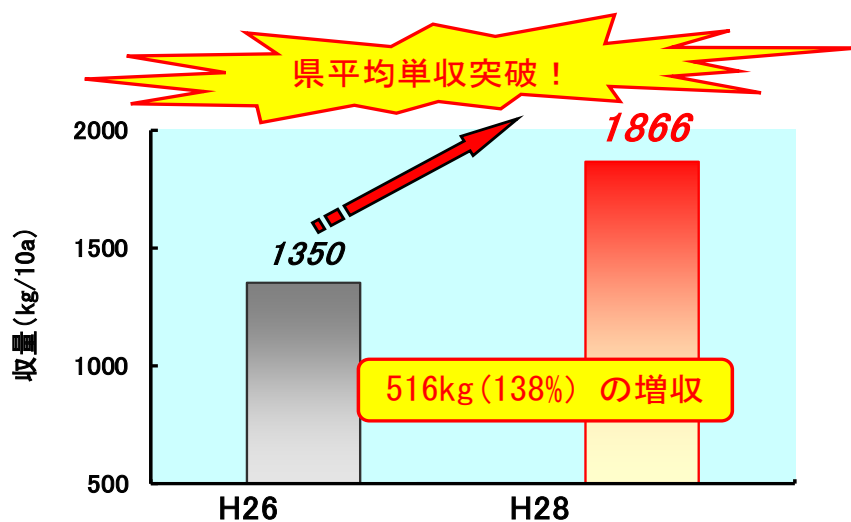


図3 重点モデル農家の平均単収向上

(2) 早期保温対策による単収の向上と出荷体制の整備

早期保温実証展示圃における春芽の収穫開始は5日間早まり、収量は282kg、所得は、トンネル被覆に必要な生産資材、労務費および販売経費を差し引いた上で約12万円増加した（表1）。平成29年産において早期保温に取り組む農家は、前年の7戸から12戸へ増加の見込みである。

選果場の稼働開始は3月中旬から2月上旬に早めることになり、早期出荷体制が整備された。

表1 トンネル被覆による早期保温における春芽の収量

試験区	収量 (kg/10a)	収穫開始 (月日)	積算気温 (°C)	積算地温 (°C)
早期保温区	1,569	3月17日	569	545
慣行区	1,287	3月22日	370	350
早期保温区－慣行区	282	5日	199	195

*早期保温区のトンネル被覆は2/22に開始

*収穫収量は両区とも4/26日

(3) 農家の意識改革と基本管理の実践

農家の中から「基本に基づいて極め細かく管理することにより収量が増えてくる」等の声が聞かれるようになり、日々の農作業においても取り組みが見られるようになった。また、先進地の農家が取り組む栽培管理技術に積極的に取り組む農家が見られるようになった。

4. 農家等からの評価・コメント（対馬市A氏）

適切な重点指導、先進地視察やその生産者との意見交換などを通じ、日々の極め細やかな管理の重要性を理解、認識することができました。さらなる単収向上を目指し、基本管理の取り組みを実践していきたいと思えます。

5. 普及指導員のコメント（農業振興普及課・専門幹・大津善雄）

基本管理技術の重要性について理解、認識させ、意識の改革につながっています。また、実際に単収も向上しています。他の部会員に対しても農家栽培カルテなどで農家の取り組み内容を確認しながら的確に指導を行なえるかが部会全体の単収向上への鍵である。

6. 現状・今後の展開等

部会全体の平均単収の向上（平成26年産1.0t→平成32年、県平均単収以上の1.8t）と産地維持対策

(1) モデル農家の成功事例等の部会全体への波及を図り、農家の意識改革、基本栽培管理の徹底による増収に繋がる取り組みを引き続き支援する。新規就農者については、早期の技術向上と経営安定に向けて、特に手厚い支援を行う。

(2) 新規栽培（就農）者の確保

単収3tの農家を育成し、アスパラガス栽培や経営の魅力を新規就農相談会、CATVおよびSNS等を活用し発信することで新規栽培（就農）者の確保につなげる。